

Research Report

地域活動に関する意識調査

1.調査概要

- 調査基本情報
- 質問項目
- Appendix①利用パネルについて
- Appendix②サンプル数の考え方

2.サマリ

- POINT1. セグメント別プロファイル
- POINT2. 地域デビューの認知・実施状況・理解
- POINT3. 地域デビュー実施者の実態
- POINT4. 地域デビュー非実施者の実態

3.グラフ・コメント集

1.調査概要

調査内容	地域活動に関する意識調査								
質問数	予備調査 9問 本調査25問								
サンプル数	本調査600サンプル								
回答者条件	埼玉県在住者 55-69歳								
割付	<table border="1"> <thead> <tr> <th>55-59歳</th> <th>60-64歳</th> <th>65-69歳</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>200</td> <td>200</td> <td>200</td> <td>600</td> </tr> </tbody> </table> <p>※男女は割付を行わず、出なりでの回収</p>	55-59歳	60-64歳	65-69歳	合計	200	200	200	600
55-59歳	60-64歳	65-69歳	合計						
200	200	200	600						
調査期間	2018年07月06日～2018年07月09日								
調査方法	インターネット調査								

事前調査

1. SA | 性別
2. SA | 年齢
3. SA | 居住地
4. SA | 未既婚
5. SA | 子供の有無*
6. SA | 家族状況
7. SA | 就業状況*
8. SA | 1週間当たりの就業時間
9. SA | 就業している都道府県

本調査

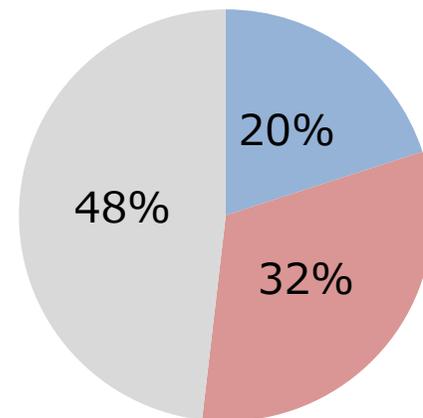
1. SA | 居住地域内での仲間(顔見知り)の数
2. MA | よく参加する活動
3. MTMA | よく参加する活動の実施方法
4. SA | どの程度日々の生活が楽しいと感じるか
5. MA | 日々の生活が楽しいと実感するとき
6. SA | 家族関係への満足度
7. MA | 定年退職後にやりたいこと
8. SA | 定年退職前の理想と現実のギャップ
9. FA | 定年退職前の理想と現実のギャップ
10. MA | 定年退職後の不安点
11. SA | 退職前後の充実感
12. SA | 人生100年時代に対する意識
13. SA | 地域活動の認知
14. MA | 地域活動の理解(定義)
15. SA | 地域デビューの実施状況
16. SA | 地域活動実施の頻度
17. SA | 地域活動時間(1回あたり)
18. MA | 地域デビューの実施理由
19. MA | 地域デビューしてよかったこと
20. MTMA | 地域デビューした年齢/考え始めた年齢
21. MA | 地域デビューの情報源
22. MA | 地域デビューに関する検索ワード
23. MA | 地域デビューにあたって集めた情報
24. MA | 地域デビューの非実施理由
25. SA | 地域デビューに関する危機感の度合い

今回の調査では、以下の3セグメントでの分析を主眼といたします。

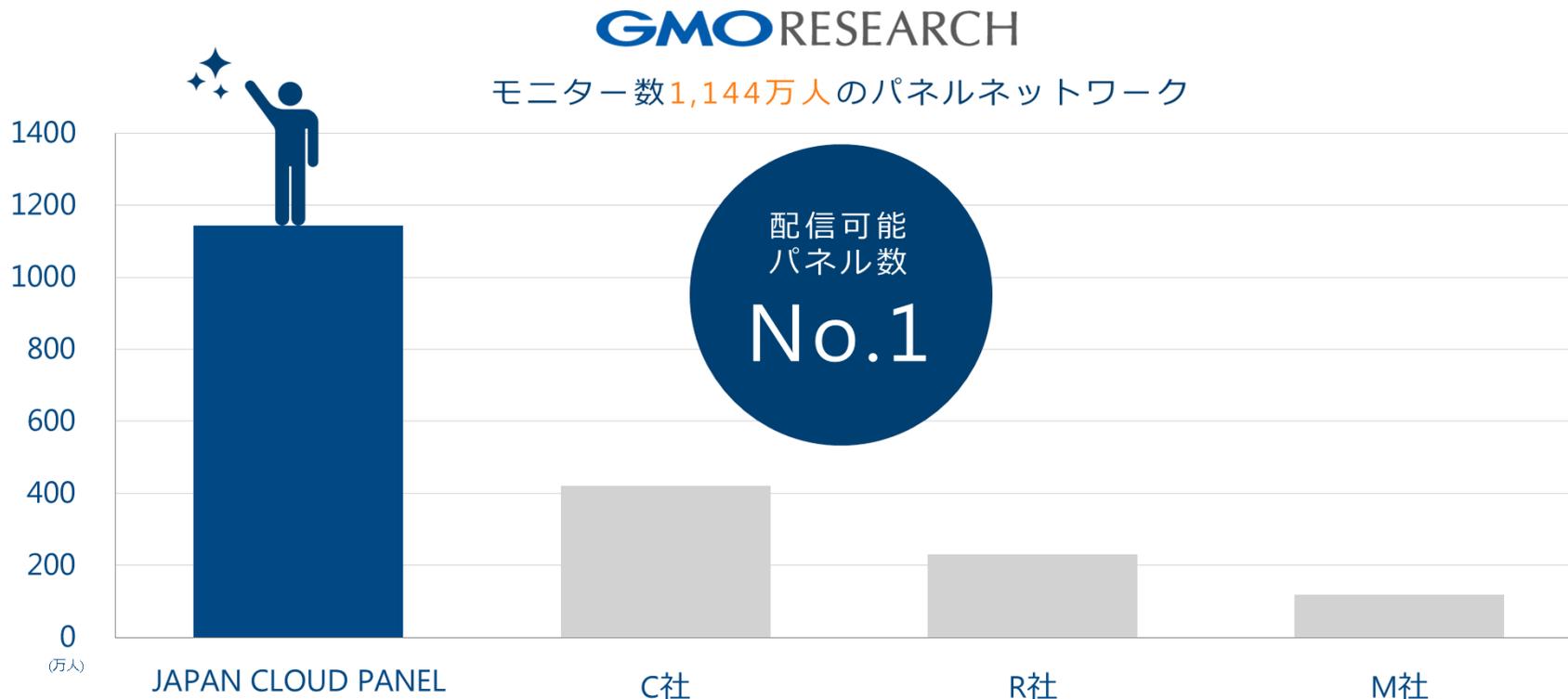
Q15.あなたは「地域デビュー」という言葉を知っていますか。 [SA]

Q25.地域デビューをしていない方に伺います。あなたは、地域デビューをしていない事についてどのように感じていますか？ [SA]

セル	条件	N数
地域デビュー実施者	Q15=地域デビューをした	120
地域デビュー 非実施者（意向あり）	Q15=地域デビューをしていない かつ、 Q25=不安を感じる、本当はやりたいと 思っている、活動すべきとは思っている	191
地域デビュー 非実施者（意向なし）	Q15=地域デビューをしていない かつ、 Q25=なんとも思わない	289



今回の調査では、日本最大級のパネルネットワーク「JAPAN CLOUD PANEL」を利用して調査を実施しております。



シグナルは、GMOリサーチ株式会社とパネルアライアンスを組み、日本最大級のパネルネットワークJAPAN CLOUD PANELを利用しております。

※リリース内容によっては難しい場合もございます。都度、ご相談させていただきます。

統計的観点から必要サンプル数を決めるには「標本誤差早見表」を用います。
 標本誤差早見表は「サンプル数と回答比率(%)」から構成されており、各サンプルとも50%の回答比率のときが、誤差が最も大きくなります。そこで、50%の欄を横に見ていき、「許容誤差を±〇ポイントに収めるには●サンプル必要」と判断していきます。

- ・許容誤差を±5ポイントに収めたい → 400サンプル必要
- ・許容誤差を±10ポイントに収めたい → 100サンプル必要

■ 標本誤差早見表

標本数 % (p)		標本数(n)とサンプリング誤差(E) *95%の信頼度 系統抽出法など単純無作為抽出法の誤差 = $2\sqrt{p(1-p)/n}$ (単位:%)												
		30	50	80	100	150	200	250	300	400	500	1,000	2,000	3,000
1%	99%	3.6	2.8	2.2	2.0	1.6	1.4	1.2	1.1	1.0	0.9	0.6	0.4	0.4
5%	95%	7.8	6.0	4.8	4.3	3.5	3.0	2.7	2.5	2.1	1.9	1.4	1.0	0.8
7%	93%	9.1	7.1	5.6	5.0	4.1	3.5	3.2	2.9	2.5	2.2	1.6	1.1	0.9
10%	90%	10.7	8.3	6.6	5.9	4.8	4.2	3.7	3.4	2.9	2.6	1.9	1.3	1.1
15%	85%	12.8	9.9	7.8	7.0	5.7	4.9	4.4	4.0	3.5	3.1	2.2	1.6	1.3
20%	80%	14.3	11.1	8.8	7.8	6.4	5.5	5.0	4.5	3.9	3.5	2.5	1.8	1.4
25%	75%	15.5	12.0	9.5	8.5	6.9	6.0	5.4	4.9	4.2	3.8	2.7	1.9	1.5
30%	70%	16.4	12.7	10.0	9.0	7.3	6.4	5.7	5.2	4.5	4.0	2.8	2.0	1.6
35%	65%	17.1	13.2	10.5	9.3	7.6	6.6	5.9	5.4	4.7	4.2	3.0	2.1	1.7
40%	60%	17.5	13.6	10.7	9.6	7.8	6.8	6.1	5.5	4.8	4.3	3.0	2.1	1.8
45%	55%	17.8	13.8	10.9	9.8	8.0	6.9	6.2	5.6	4.9	4.4	3.1	2.2	1.8
50%	50%	17.9	13.9	11.0	9.8	8.0	6.9	6.2	5.7	4.9	4.4	3.1	2.2	1.8